

弱視者のためのピクトグラムの開発とその応用

広島なぎさ高等学校 2年 曾根川 嘉美

①目的

ピクトグラムを伝達する対象者に、外国人観光客や識字が困難な人だけでなく、**弱視者**も含むことができるののではないかと考えた。本研究では、災害時に重要となる「**非常口**」に焦点をあてより正確に識別できるピクトグラムを開発することを目的としたものである。

②方法

(1) 広島県立視覚障害者情報センター※の協力のもと、下記アプリを使用し弱視者の見え方を疑似体験しながらデザインづくりを行った。

(※アプリの紹介、意見交換等の協力をして頂いた。)

(2) 様々な色やデザインのピクトグラムを作成し識別しやすさを検証した。

弱視疑似体験メガネを使用し、視認性テストを行った。(実験者:10代~90代の男女30名)

疑似体験メガネ 見え方紹介 色のシミュレータ



③検証1 (デザイン)



(通常)

①

②

③

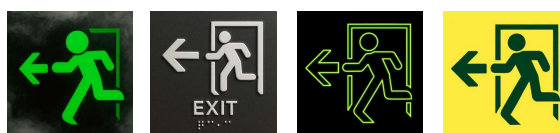


④

⑤

⑥

⑦

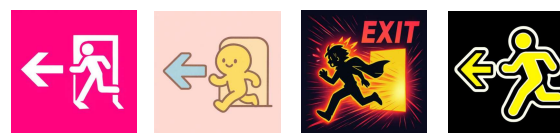


⑧

⑨

⑩

⑪



⑫

⑬

⑭

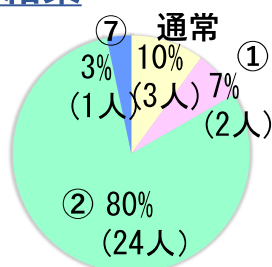
⑮

④検証1 (デザイン) 結果



②

・扉の絵なし
・人物+矢印
・シンプル



⑤色彩検討

見分けにくい色の例



見分けやすい色の例



⑥検証2 (色)



A

B

C

D



E

F

G

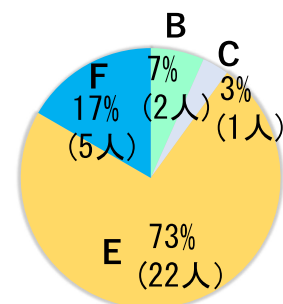
H

⑦検証2 (色) 結果



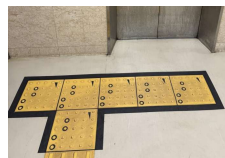
E

- ・高いコントラスト
- ・人物色：明るい
- ・背景色：暗い

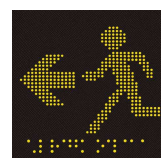


⑧今後の応用

・非常口へ誘導する通常の点字ブロックに加え、視覚的にも認識できるように非常口の前に点字のピクトグラムを設置する。



+



⑨考察及び今後の展望

- ・デザインは最低限必要な情報のみを残したシンプルで分かりやすいものが良い。
- ・背景と図柄の色が高コントラストなものが良い。
- ・弱視者には光に敏感な人もいるため、背景色は白などの明るい色は避け暗い色が良い。
- ・様々な種類の弱視(色覚異常, 斜視, 明順応障害, 白内障等)にも対応したデザインの検討。
- ・要素も組み合わせた検討。
 - ①音 (例: 音声案内, サイレン等)
 - ②掲示場所 (例: 壁, 床, 天井)
 - ③メガネ (例: 色補正機能付, 音声機能付等)